

Title	明治維新史研究を読む(一)
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.4 (1929. 12) ,p.44(552)- 44(552)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291200-0044

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

明治維新史研究を讀む（一）

明治維新史研究書中平尾道雄氏幕末浪人と其保護及び統制と題する項目中同頁末に佐々木唯三郎已下三名取締役並出仕に中山修輔山内八郎の二名が調役に任じられたとあるが誤りである

彼等は京都に於て浪士が東歸と決定し出發の朝突然任命せられたものなり

因に云ふ彼等は講武所附の劔客にして幕府に於ては清川八郎が京都に於て縉紳の間に奔走し舉動穩かならざりしを憂慮し道中監視し場合に依つては八郎を除かんとする腹案なりしも計り知るべからず祕計中の祕計なれば信否は斷言し能はざれども八郎を暗殺したるは彼等にありしより察すれば或は事實なりとするも敢て誣言ならざるべし

彼等の任命は傳通院へ集合せし當時にあらざる事は確實なり

五四八頁の建白書に五名の姓名を記載しあれども誤なり

該建白書は浪士一同と記したるものにて山岡鐵太郎の姓名不記載すべき理由なし

五五〇頁京都の殘留組二十四人とあるは誤なり

近藤勇と共に殘留せしものは十三人である

列記したる二十四名の中根岸勇山とあるは友山の誤りならん友山は武州兜山の郷士にして文武に長じ德行の人物で門人二十名計を率ひ浪士組に加入したれども東歸後續ひ脱隊して郷里に歸つたのである門人等の中庄内へ下り戊辰戰役に功勞を顯したものもある

近藤已下十三人組の中土方歲三沖田總司長倉新八山南敬助等は純然たる近藤勇の股肱なりしも水府派と稱する芹澤鴨新見錦等は近藤と勢力伯仲の間に在つたが兩人共近藤の爲めに非命に斃れ後全く近藤の新撰組となつて追々增加して隆盛時代には百三十餘名となつた事もある

因に云ふ新撰組が會津藩に屬し京都市の取締に從事し一面會津藩に對し功果ありしには相違なきも一面薩長藩士及其他の浪士に對し私闘を敢てし會津藩が薩長より仇敵せられたるは新撰組の私闘より起因せし事も亦大なりと云ふべし

清川八郎は過激に失して兎奴に斃れたが至誠の人で自己の榮達は顧みない近藤勇は自己の榮達に汲々した彼が末路に旗本格となつて褒金の陣笠を冠りて得たりしは明治二十二年まで存命し北海道に在つて餘命を保つた同士長倉新八も歎じて話した事實がある